

立待月

十六日なりしかばいざよふ月をおぼしめしわすれざりけるにやといとやさしくあはれにて、
たゞ此返事ばかりをぞ又きこゆる、

〔運歩色葉集多〕立待月タチマチノツキ十七夜

〔撮壤集上〕月タチマチ立待月タチマチ

〔和爾雅一文〕既キ生魂セイバク日ニチ也也立待月タチマチ日ニチ也也

〔藻鹽草天象〕月ツキ立待タチマチとの日ニチ又マタ立待タチマチとの月ツキ

〔倭訓栞中編十三〕たちまちのつき 立待月也十七日の月の山のは出るを立やすらひての義なり、

〔新撰六帖一〕たちまち 家良

我門をさしわづらひてねるをのこさぞ立待の月もみるらん

〔狗狽集五〕十七夜立待に 正直

月は今たちまち出ん十七夜

居待月

〔撮壤集上〕月ツキ居待月イダシツキ

〔八雲御抄三上〕月ツキ略カク 中ナカ ぬまちヌマチにニぬまちヌマチ月ツキといふ、

〔藻鹽草天象〕月ツキ居待の月イダシツキ十八日

〔倭訓栞前編四十三〕ぬまちづき 万葉集に座待月とみゆ十八夜をいふ立待月に對したる名なり、

〔萬葉集三〕雜歌サカヒ羈旅歌カヒ一首并短歌

海若者ウツクハ靈寸アハシキ物香モノカ淡路島カタスチノシマ中爾ナカニ立置タチオキテ而シラナミテ白浪シラナミ乎ナニ伊與爾イニ回之マケラシ座待月イマダツキ開石門アカシノト從者ユハ者ハ略カク 下

〔新撰六帖一〕ぬまち 家良